

# 戦争、貧困、差別、環境破壊を招く G7——民主主義を殺すボス交の仕組み

小倉利丸

# G7 の概要

第一回： **1975** 年

国連のグローバル経済ガバナンスへの対抗

軍事安全保障における国連機能の骨抜き

現在に至る

基本性格

- 首脳によるトップダウン
- 迅速な意思決定

## G7 のトップダウン

「それぞれの国で総合的・横断的に様々な分野を総覧する立場にある首脳が**トップダウンで物事を決める**ため、適切な決断と措置を迅速に行うことが可能になります。」

外務省：伊勢志摩サミット <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/ise-shima16/summit/about.html>

## G7 反対運動

1984 年ロンドンサミットで大規模な反対運動

1990 年代 新自由主義グローバリゼーションへの  
の対抗運動としての反サミット運動が定着

2001 年 イタリアのジェノヴァサミット 30 万  
人が抗議デモ

以後、大都市から辺鄙な保養地に会場を移す  
政策提言型 NGO の取り込み（反対運動の切り  
崩し）

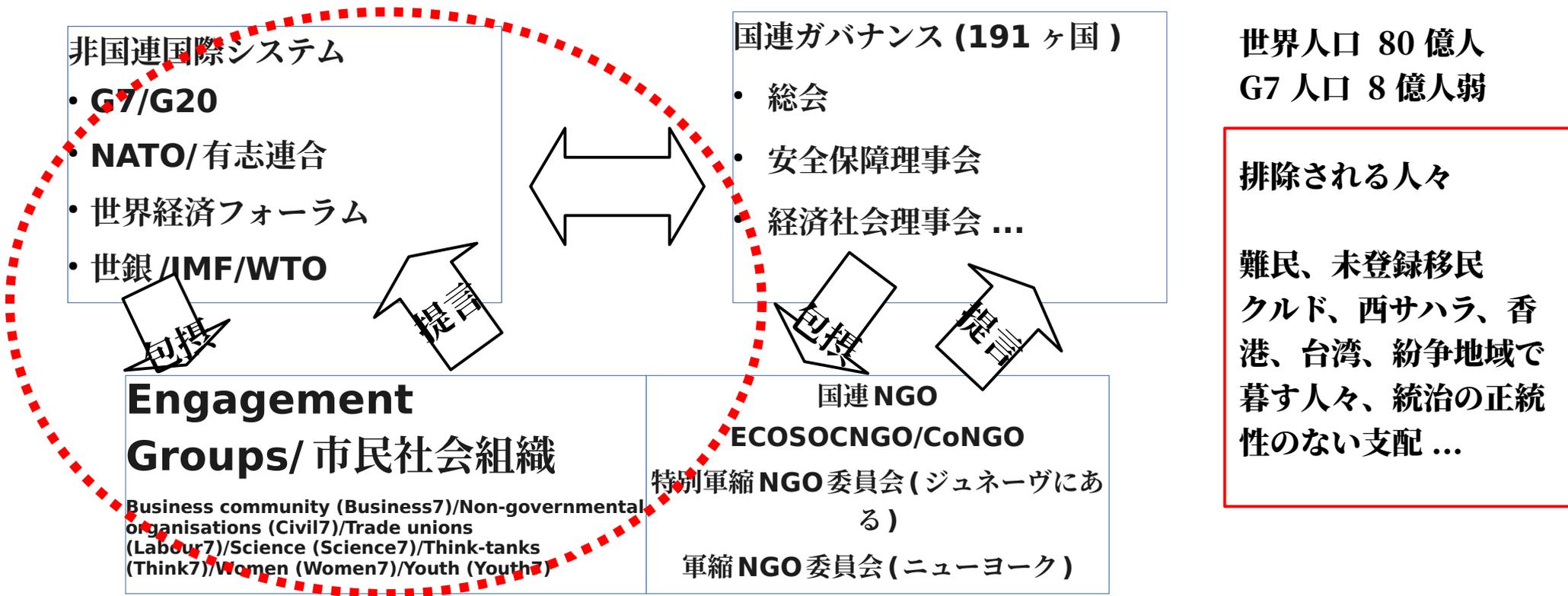


世界人口 80 億人 ⇔ G7 人口 8 億人弱

### 排除される人々 難民、未登録移民

クルド、西サハラ、香港、台湾、紛争地域で暮す人々、統治の正統性のない支配 ...

# G7 の基本的な性格：脆弱なグローバル「民主主義」を壊す !!



民主主義のプロセスはどこにもない

### G7 の常套句

「我々は、ウクライナの軍事及び防衛装備に関する緊急の要求を満たすための取組を引き続き調整する。」

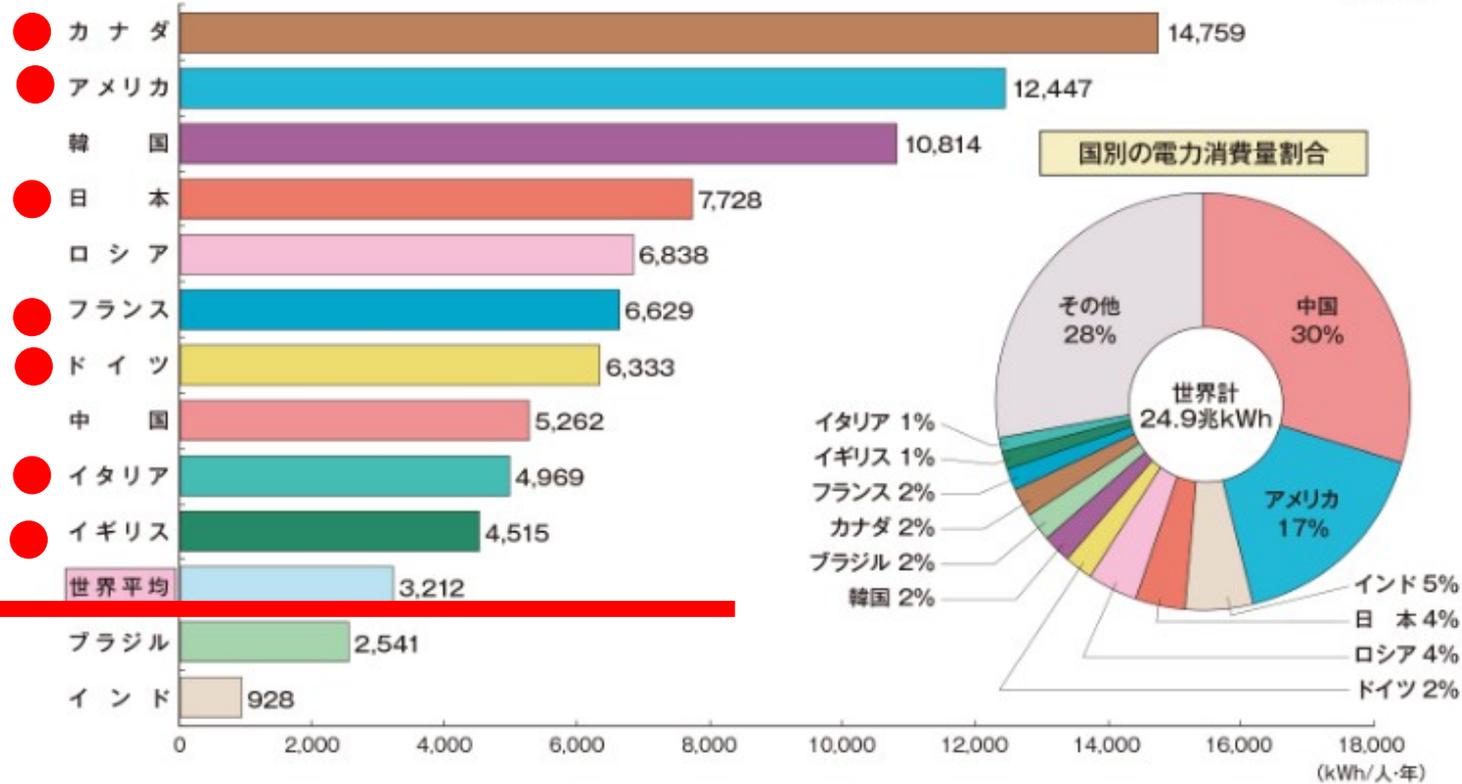
## G7 とウクライナへのロシア侵略戦争

- 「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」によって **G7/NATO** との足並みが揃う
- **G7** 加盟国として日本が「戦争放棄」を主張したことはない
- 来年の議長国としてよりいっそう戦争に加担することに

# **G7 加盟は戦争放棄に寄与しない**

# 主要国の一人あたりの電力消費量

(2020年)

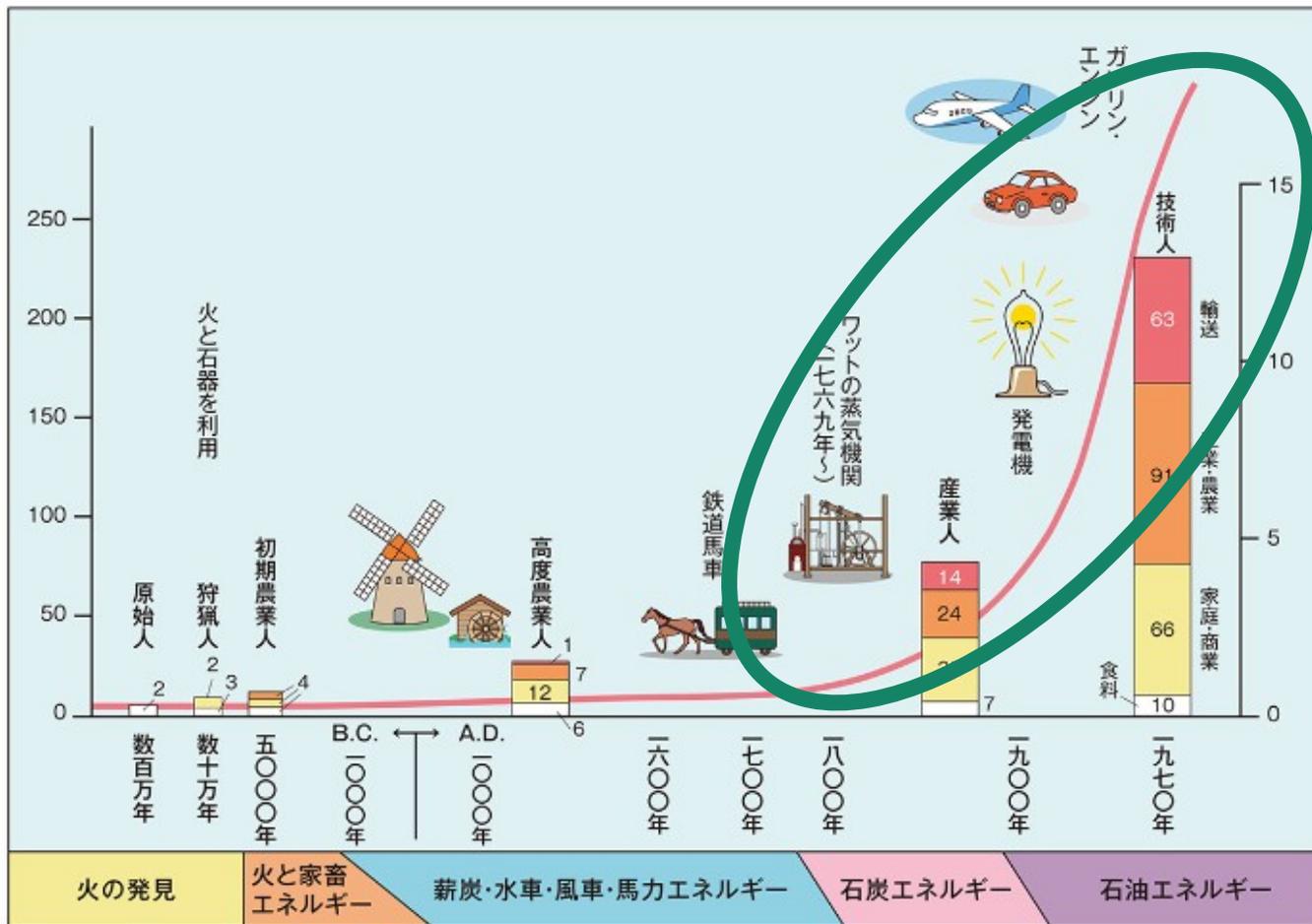


(注) 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある

1-1-10

出典：IEA「World Energy Balances 2022」より作成

一人あたり消費量(二〇〇〇キロカロリー/日)・棒グラフ



石油換算消費量(二〇〇万キロリットル/日)・曲線グラフ

原始人	百万年前の東アフリカ、食料のみ。	高度農業人	1400年の北西ヨーロッパ、暖房用石炭・水力・風力を使い、家畜を輸送に利用した。
狩猟人	十万年前のヨーロッパ、暖房と料理に薪を燃やした。	産業人	1875年のイギリス、蒸気機関を使用していた。
初期農業人	B.C.5000年の肥沃三角州地帯、穀物を栽培し家畜のエネルギーを使った。	技術人	1970年のアメリカ、電力を使用、食料は家畜用を含む。

## 私達の選択は

- 民主主義を脆弱にするシステムには加担しない
- 戦争には加担しない
- エネルギー過剰消費には加担しない

**G7 は対話の相手ではない**

**憲法 9 条の理念と G7 は相容れない**

**G7 は解体されるべき、少なくとも日本は離脱すべき**